

Q5 作文を書くことが苦手です

【考えられる背景】

- 文字を書くことへの抵抗から書くことができない
- 経験したことを思い出せず、作文にすることができない
- 書き方（構成）が分からない
- 語い力、表現力が不足している

【支援への手がかり】

☆ 「書く」ことが楽しいと思える活動を取り入れる

『いつ、どこでゲーム』のように、「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」という部分の担当を決め、一人が一つの課題を考えてカードに書きます。できたら、カードを集めて読み上げていきます。意表をつく文章の出来上がりが場を盛り上げ楽しさを増すことでしょう。このような活動を通して文を作ることや、「書く」ことのおもしろさを味わうことが大切です。

☆ 代替手段を考える

作文が苦手な子どもの中には、「文字を書く」ことに対して抵抗感を持っている子どもがいます。「書く」ことを拒否しがちな子どもの場合、まず指導者が聞き取り、まとめ、視写することから始めてみることも大切です。また、パソコンなどを利用、「書く」ことへの抵抗感を避けることを必要とする場合もあります。

☆ 記録を残す

行事などの作文を書くときは、時間ごと、ポイントごとに風景や子どもの様子を記録（写真など）で残し、様子を思い出しながら順を追って書かせることは、記憶に課題がある子どもにとっては手がかりとなるでしょう。

☆ パターンを覚える

身近な出来事を取り上げ書いてみましょう。

例えば、「朝ごはん」「登校時のこと」「休み時間」のことなどを題材に、下記のようなパターン化されたプリントに記入していきます。記入した後は、声に出して読みます。このような活動を通して、簡単な文の構成がどのようなになっているのか覚えやす。次の段階として、できた文章を書き写すことや記入する部分を増やし、文の構成を複雑にするなどの手立てをとりましょう。

（ ）時間目の休み時間に、ぼくは（ ）さんと
（ ）をして遊びました。
（ ）はうまくできました。楽しかったです。

☆ 絵を見て簡単な文作りに挑戦する

話の順番のあるカードを用い、文作りに挑戦します。はじめは数枚のカードを、次にカードを増やして、そして、複雑な絵本を用い、子どもや風景の様子を見て文を作る等ステップアップを図ります。

(例)

【絵を見て、お話を作しましょう】



絵：『わかるかな？』ことばの教材集 3

とうきょうきょうざい

Q：夏休みのことです。野球ぼうしをかぶっている男の子はどうしていますか？



絵：『くもんのことば絵じてん』くもん出版

☆ 五感で感じたことを書く

日々の出来事の中で、基本的な作文の形式をつかませることが大切です。5W1Hを基本とした形式で文を構成していきます。その他に、「目」「鼻」「口」「耳」「手」などの絵を提示し、例えば「見えるものは何だったかな？色は？形は？」「においはどんなだった？」と聞き、五感で感じたことを思い出し書くようにすると、詳しく書くことができます。

思いついてみよう

わたしは、

いつ（きのう、きょう、วันหยุดに）

どこで（おうちで、学校で、公園で、）

だれと（〇〇さんと、お父さんと、いもうとと、）

なにを（ドッジボールを、絵本を、買い物）

どうした（した、読んだ、買った）

何が見えたのかな？

どんな話をしたの？

何か聞こえてきたかな？